

# I. 調査の概要

---



## 1. 調査の目的

従来、ダムは治水、利水等主に下流地域の国土保全、国民生活の安定、産業経済の発展のために利用されてきたところである。

21 世紀においては、これらのダムの効果に加えて、ダム及び水源地域の豊かな自然、文化等を活用した地域の振興及び、バランスのとれた流域の発展を図ることにより、21 世紀のランドデザインの一部として機能することが期待されている。

このため、平成 13 年度から国土交通省所管の直轄ダム及び水資源開発公団ダムについて、ダムごとに、水源地域の自治体等と共同でダムを活かした水源地域の自立的、持続的な活性化のための行動計画「水源地域ビジョン」を策定・推進している。

本調査は、水源地域ビジョンの推進を図るため、ビジョンの中から全国の参考となるようなモデル的な提案を選定し、ビジョン実施のための具体的方策等について調査・検討するものである。

なお、本調査の実施に当たっては、河川局河川環境課流水管理室とも共同して行ったところである。

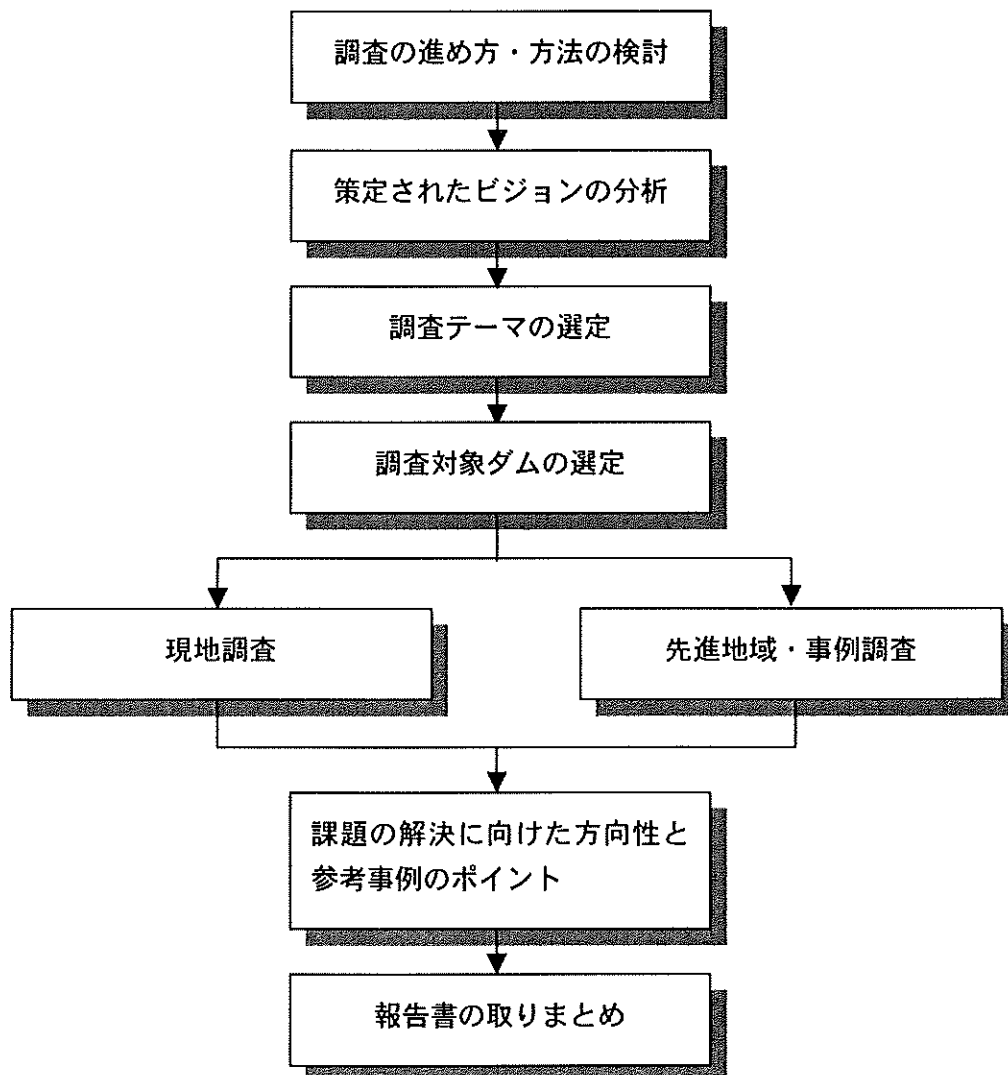
本調査による成果が水源地域ビジョン策定ダム地域はもとより、全国の水源地域において活用されることにより、水源地域の活性化が促進されることを期待するものである。

## 2. 調査方法

### 2-1. 調査フローと調査概要

#### (1) 調査フロー

本調査のフロー図を以下に示す。



## (2) 調査概要

### ① 策定されたビジョンの分析

本調査の調査開始時点までに策定された水源地域ビジョン（10 地域・11 ダム）について分析を行うこととし、ビジョンに記載されている事業について森林環境の保全と利用、ダム湖等の保全と活用、上下流交流の促進、観光ルートの整備等のカテゴリに分類し、それぞれの地域で取り組むこととしている内容について明らかにする。

### ② 調査テーマの選定

調査テーマの選定に当っては、①の分析結果を踏まえ各地域のビジョンで取り組むこととしている事項のうち、ビジョンを推進する上で他のダムの参考となる事項及び特徴的な取り組みをテーマとして選定する。

### ③ 調査対象ダムの選定

次に調査対象ダムの選定に当っては、ビジョン策定ダムのうち、ビジョンの内容に②で選定したテーマについて取り組むこととしているダムを選定する。

### ④ 現地調査

調査対象ダムにおいて、当該テーマごとに事業の推進状況、当該テーマに取り組むこととした背景、実施に当たっての課題、今後の取り組みの方向性などについて、ビジョン策定関係者からの聞き取り調査を実施する。

### ⑤ 先進地域・事例調査

全国の地方整備局及びダム管理所に対する事例調査を実施し調査テーマに関連する取り組み事例を収集するとともに、調査会社が保有する情報、文献、ホームページも含め、水源地域以外の取り組みについてもビジョンを推進する上で参考となる調査テーマに係る事例について幅広く情報を収集する。

### ⑥ 課題を解決するための方向性の検討と参考事例のポイントの整理

現地調査等により各ダムごとに把握した課題等を基に、調査テーマを推進する上での共通の課題を抽出し、これら共通の課題を解決するための方向性を検討するとともに、調査テーマの推進に資する参考事例のポイントを整理する。

### ⑦ 報告書の取りまとめ

「Ⅰ. 調査の概要」、「Ⅱ. 課題編」、「Ⅲ. 事例編」の三部構成とし、「Ⅱ. 課題編」及び「Ⅲ. 事例編」については、全国の水源地域ビジョンの策定・推進に資することを主点としつつ、ビジョン策定ダム以外のダム水源地域においても役立つよう一般性の高い情報を提供することとする。

## 2-2. 調査テーマの選定

調査テーマの選定に当たっては、策定されたビジョンの分析結果を踏まえ各地域のビジョンで取り組むこととしている事項のうち、ビジョンを推進する上で他のダムの参考となる事項及び特徴的な取り組みをテーマとして選定する。

調査テーマ及び選定したポイントを以下に示す。

### 調査テーマ

1. ダム活用策と地域イベント・観光スポットとの連携・ルート化
2. 流木等の資源化及び地域活性化のための財源化
3. 環境学習や山地・水源地域学などのフィールドの提供
4. 地域通貨等による地域活動のための財源の創出

テーマ	選定のポイント
1. ダム活用策と地域イベント・観光スポットとの連携・ルート化	・既存の資源をネットワーク化することにより、資源間の相互利用が促進され、さらに波及効果が期待できること
2. 流木等の資源化及び地域活性化のための財源化	・地域内の不要と考えられていた資源を見直し、再資源化することにより、地域の財源となり得ること
3. 環境学習や山地・水源地域学などのフィールドの提供	・ダムとその周辺地域を都市部の住民に広く開放することにより、水源地域への理解がより一層促進され、水源地域に活力を与えること
4. 地域通貨等による地域活動のための財源の創出	・地域活動のための財源確保が困難な水源地域において、財源を創出するための地域通貨の導入、基金の設立について検討することとしていること ・さらに、現金によらなくとも、ツールや仕組みを工夫することにより、地域活動に必要なモノやサービスを移転させることができ、財源の創出に等しい効果が期待できること

## 2-3. 調査対象ダム

### (1) 調査対象ダムの選定

次に調査対象ダムの選定に当っては、ビジョン策定ダムのうち、ビジョンの内容に2-2で選定したテーマについて取り組むこととしているダムを選定する。

なお、選定ダムの所在地域は、関東地域、近畿地域、中国地域及び四国地域である。

### (2) 調査対象ダム地域の概要

#### Aダム

- ・ダム地域である自治体は、90%以上を森林が占める。
- ・ダム湖周辺の豊かな自然環境を観光資源として活用し、地域の活性化を図ろうとしている。
- ・これまで宿泊施設、美術館、体験工房等の観光・交流施設の整備を進めてきたが、観光客の多くが美術館へ集中し、それ以外の施設や地域資源の利用者が少ないこと、及び観光客に比べ宿泊客が少ないことなどが問題となっている。
- ・このため、地元自治体はダム湖や河川のさらなる活用、滞在型観光や広域プロモーションの推進などを観光施策方針として掲げ、改善を図ろうとしている。

#### Bダム

- ・3町にまたがるダム周辺は、それぞれの立地特性を生かした施設がほぼ整備された状況にある。
- ・各施設やイベントに対する利用者や参加者の満足度は高く、特に景観、環境保全に対する満足度は非常に高いものとなっている。
- ・これらの評価と大都市からの近接性もあり、ダム周辺は高い集客力を示している。

#### Cダム

- ・ダム周辺地域は過疎高齢化に悩む中山間地域であるが、地方中枢都市から1時間の位置にあり、都市交流による活性化促進への期待を集める立地条件にある。
- ・このため当初からキャンプ場、ダム記念館、ゴルフ場などのダム周辺環境整備に取り組み、その後も地元自治体でダム湖活用の協議を続けてきた。
- ・ダム周辺は美しい里山の風景に彩られた地域であるが、幹線道路から距離があることやダム湖の優れた空間環境の開発が課題となっており、地元からは、ダム地域の活性化の進展が期待されている。

## Dダム

- ・ダム地域である地元自治体は、周囲を高い山々で囲まれた山間地域で、今なお豊かな自然が残されている。
- ・特に豊富な山・緑・水などの形成する壮大な自然景観資源に恵まれており、山あいの溪谷が形づくる滝等の自然景観に優れている。
- ・しかし、鉱山の閉鎖等により人口が激減し、山間地であるという厳しい生活条件と主要産業である林業の衰退等によって、過疎化、高齢化の進行が続いている。
- ・また、林業の衰退等により放置人工林が増加し、森林土壌の流失による山の保水力の低下や、土砂の流入によって、ダムでは濁水と堆砂が問題となっている。

### (3) 調査テーマと調査対象ダム

調査テーマと調査対象ダムとの関係は下表のとおりである。

テーマ	Aダム	Bダム	Cダム	Dダム
1. ダム活用策と地域イベント・観光スポットとの連携・ルート化	○	○	○	
2. 流木等の資源化及び地域活性化のための財源化				○
3. 環境学習や山地・水源地域学などのフィールドの提供		○	○	○
4. 地域通貨等による地域活動のための財源の創出	△		○	



## 2-4. 調査の方針及び留意点

### (1) 調査の方針

- 四つのテーマについて、それぞれを推進するための課題について調査対象ダム情報を基に共通課題を抽出し、課題解決の方向性について検討する。
- 参考事例の収集は、水源地域の事例に限らず、当該テーマの趣旨を踏まえ、地元がアレンジして活用できるような汎用性の高い事例を収集する。
- 各ダムからの情報収集（背景・目的、問題点、課題等）に当たっては、ダム管理者だけでなく、市町村等を含め幅広く行う。
- 調査に当たっては、各ダムの水源地域ビジョンの推進及び今後新たに水源地域ビジョンの策定に取り組むダム地域の参考となる情報の整理・提供を行う。

### (2) 留意点

テーマ	留意点
1. ダム活用策と地域イベント・観光スポットとの連携・ルート化	・ダム水源地域だけでなく、全国各地において、地域の持つ様々な資源（自然、イベント、施設、歴史・文化等）を結び付け、広域化、一体化、連続化すること等により、地域の活性化を図っているような取り組み事例について調査
2. 流木等の資源化及び地域活性化のための財源化	・流木等を活用した地域イベント、流木等の再資源化について、ダム管理所の取り組みだけでなく、多様な主体が参加することによる財源確保方策等について検討
3. 環境学習や山地・水源地域学などのフィールドの提供	・環境学習等のプログラムによるフィールドの活用方策や地権者との調整方策、さらには環境学習や山地・水源地域学の推進体制の確立への取り組みについて検討
4. 地域通貨等による地域活動のための財源の創出	・地域活動のための財源の創出を図るための方策について検討 ・また、地域通貨を活用した地域活動の活性化事例について調査

### (1) 現地調査

#### ① 調査の目的

調査対象ダムの調査結果を基に、調査テーマを推進する上での課題を抽出することを目的とする。

#### ② 調査の内容及び方法

ビジョン策定の経緯と基本的考え方、策定後の推進状況（現状、問題点、課題、今後の進め方、当面の取り組み等）について、調査対象地を訪問し、調査対象ダム管理所や地元自治体、民間団体等のビジョン策定主体から聞き取りを行う。

なお、ビジョン推進に向けて検討中であるダムについては、策定されたビジョンの本文内容から、考えられる問題点や課題を抽出し、聞き取りによる調査結果を補足する。

以上の調査結果から得られた課題を整理することにより、水源地域に共通する課題として整理し、各課題についての内容とポイントを整理する。

#### ③ まとめ方

以上により得られた結果を調査テーマ別に、以下の項目にしたがって取りまとめる。

- ・当該テーマを取り上げた背景及び目的
- ・ビジョンにおける位置づけと進捗状況
- ・地元が考える問題点
- ・テーマ実現に向けての課題
- ・課題の整理

### (2) 先進地域・事例調査

#### ① 調査の目的

ビジョンを推進する上で参考となるような汎用性の高い全国各地での取り組み事例を収集・整理することを目的とする。

#### ② 調査の内容及び方法

全国の整備局及びダム管理所に対して事例調査を実施し、調査テーマに関連する取り組み事例の収集にあたる。また、過去の調査報告や書籍、広報誌、ホームページ検索をもとに、調査テーマに関連し得る取り組み事例を広範囲に収集する。

以上の方法により収集した事例の中から、水源地域においても参考となり得る事例を抽出し、担当者へ直接問い合わせるなど、必要に応じて情報を補足する。

### ③ まとめ方

以上により得られた結果を調査テーマ別に、原則として以下の項目にしたがって取りまとめる。ただし、情報量の少ない事例については、記載されていない項目もある。

- ・ 取り組みのきっかけと経緯
- ・ 取り組みの内容及び方法
- ・ 取り組みの推進方策
- ・ 現在の課題と今後の方向性

## (3) 課題を解決するための方向性と参考事例のポイント

### ① 調査の目的

現地調査により整理された課題を解決するための方向性について検討するとともに、先進地域・事例調査から得られた取り組みのポイントを示すことにより、水源地域においてビジョンを推進するための参考とすることを目的とする。

### ② 調査の内容及び方法

先進地域・事例調査の調査結果を基礎情報として、これまでの水源地域活性化調査の経験を踏まえ、全国の水源地域において参考となるような汎用性の高い課題解決の方向性を検討するとともに参考事例のポイントを示す。

### ③ まとめ方

以上により得られた結果を調査テーマ別に、以下の項目にしたがって取りまとめる。

- ・ 課題を解決するための方向性
- ・ 課題を解決するための参考事例のポイント

